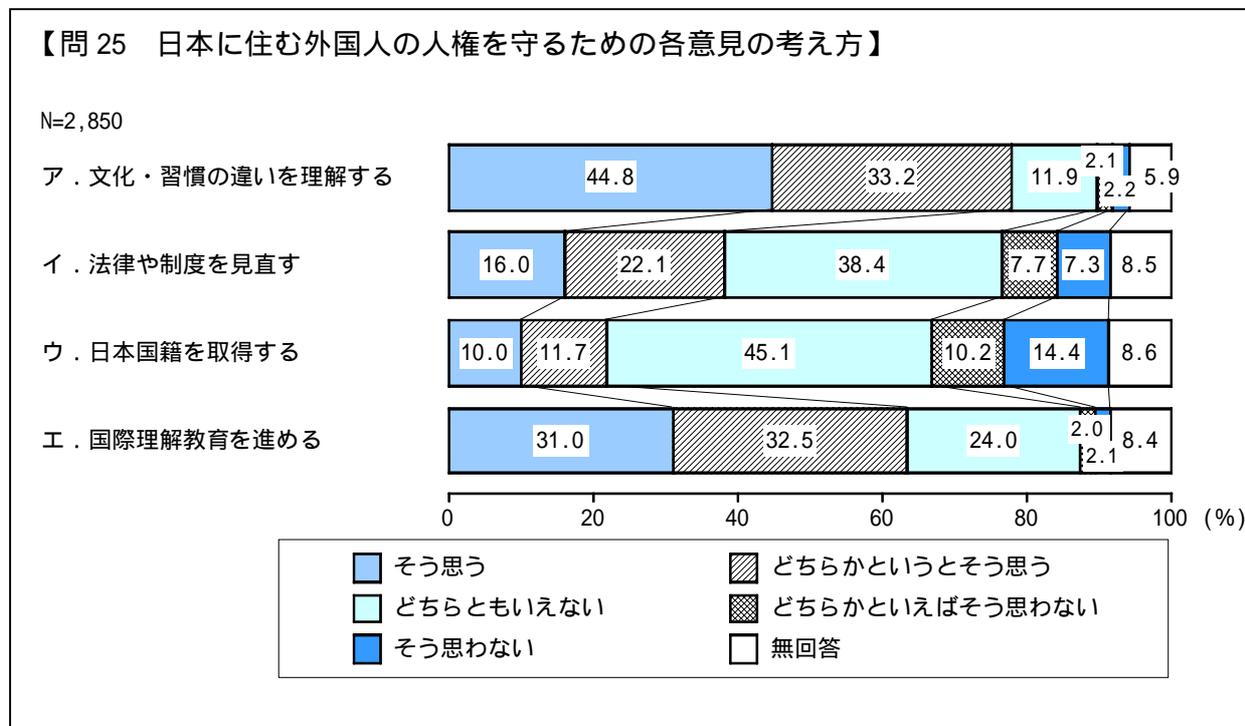


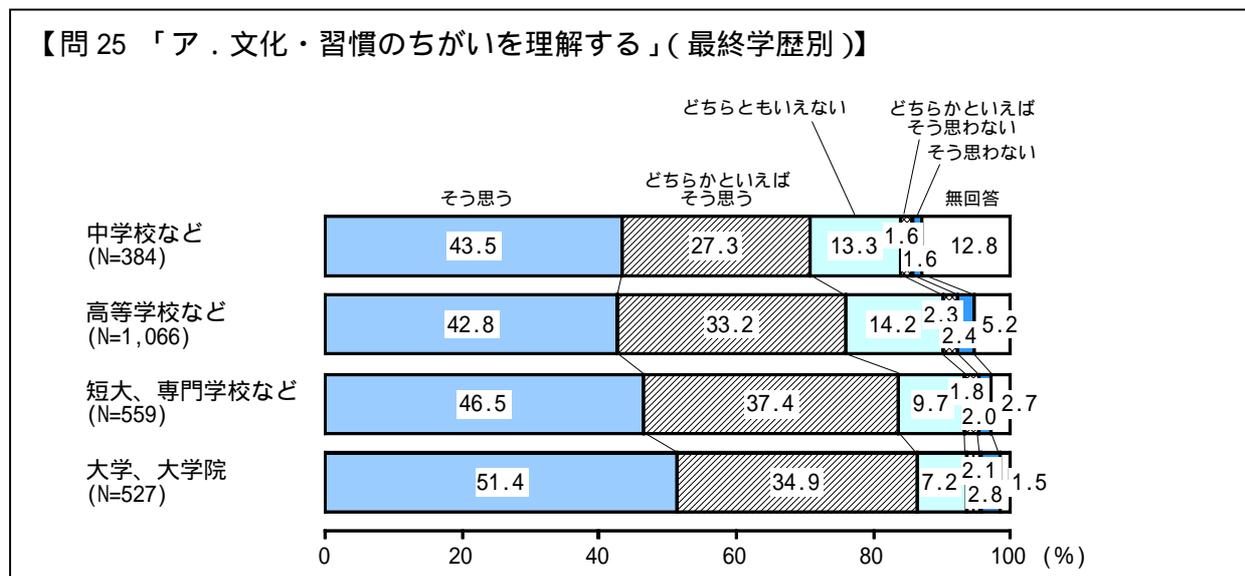
7 日本に住む外国人の人権について

問 25 日本に住む外国人の人権を守るために次のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。(ア～エのそれぞれについてあてはまるもの1つに)

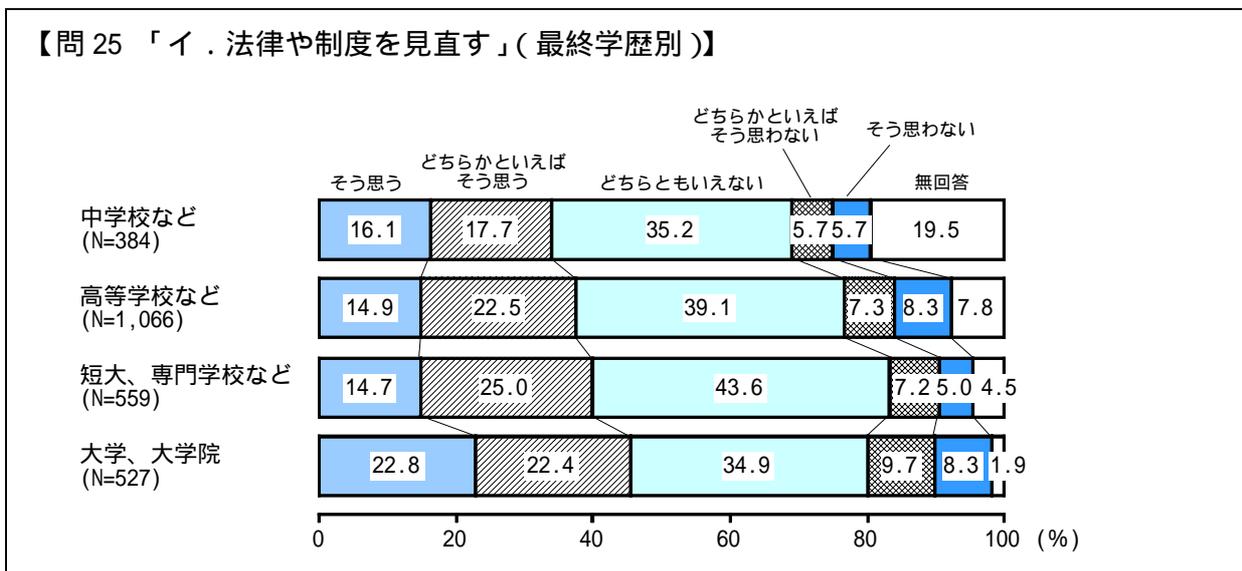


日本に住む外国人の人権を守るための各意見の考え方については、「ア．文化・習慣のちがいを理解する」、「イ．法律や制度を見直す」、「エ．国際理解教育を進める」の項目では「肯定派」の割合が「否定派」の割合よりも高くなっている。

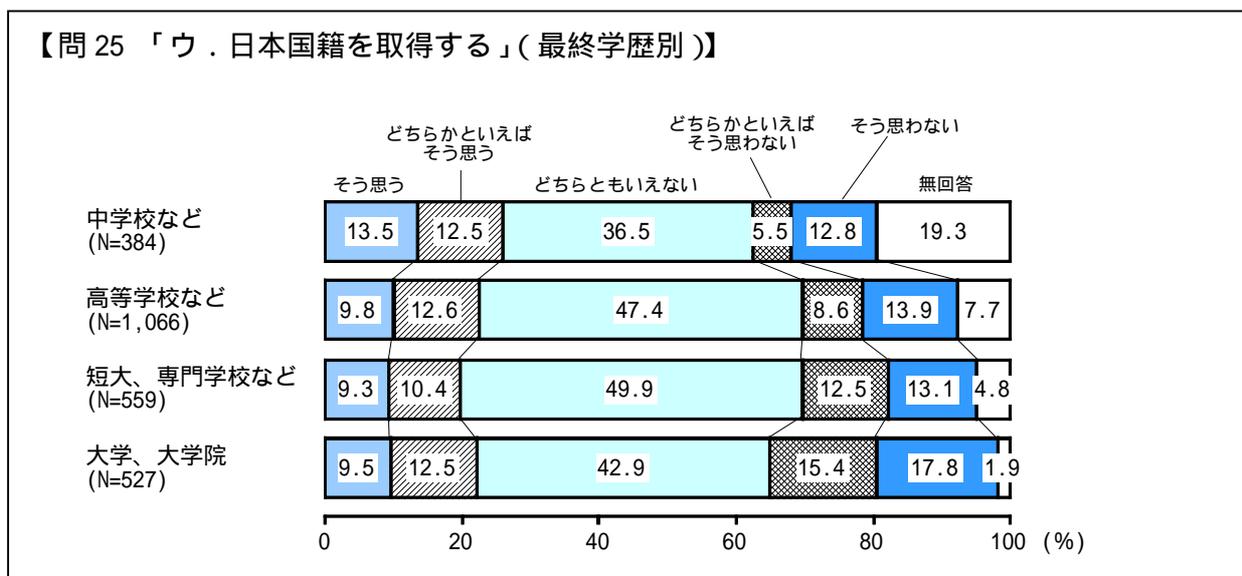
しかし、「イ．法律や制度を見直す」、「ウ．日本国籍を取得する」では、「どちらともいえない」の割合が最も高く、判断をしがたいことであることがうかがえる。



「ア．文化・習慣のちがいを理解する」について、最終学歴別でみると、「肯定派」の割合は学歴に関わりなく7割以上を占め、大学、大学院で86.3%と最も高く、中学校では70.8%と最も低くなっており、高学歴になるほど高くなっている。

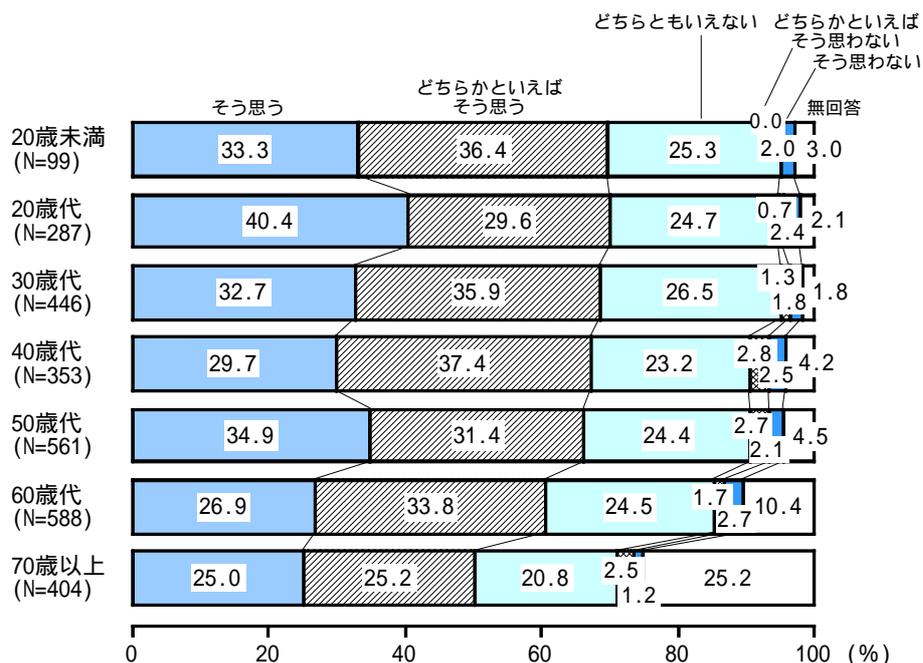


「イ．法律や制度を見直す」について、最終学歴別でみると、「肯定派」の割合は大学、大学院で45.2%と最も高く、中学校では33.8%と最も低くなっており、高学歴になるほど高くなっている。「そう思う」は大学、大学院でのみ2割を超えている。また、「否定派」の割合は学歴に関わりなく1割～2割となっている。



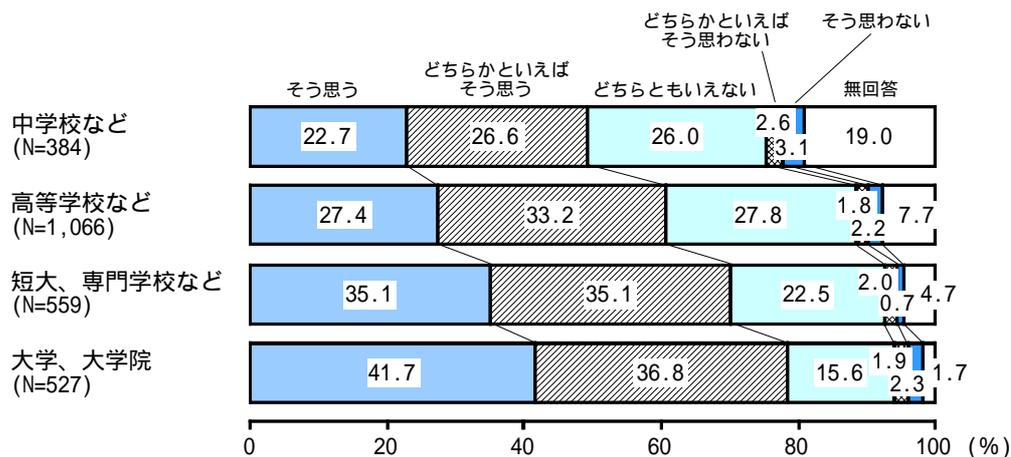
「ウ．日本国籍を取得する」について、最終学歴別でみると、「否定派」の割合は大学、大学院で33.2%と最も高く、中学校などで18.3%と最も低くなっており、高学歴になるほど高くなっている。また、「どちらともいえない」は学歴に関わらず高い割合となっており、特に短大、専門学校などでは約半数を占めている。

【問 25 「エ．国際理解教育を進める」(年代別)】



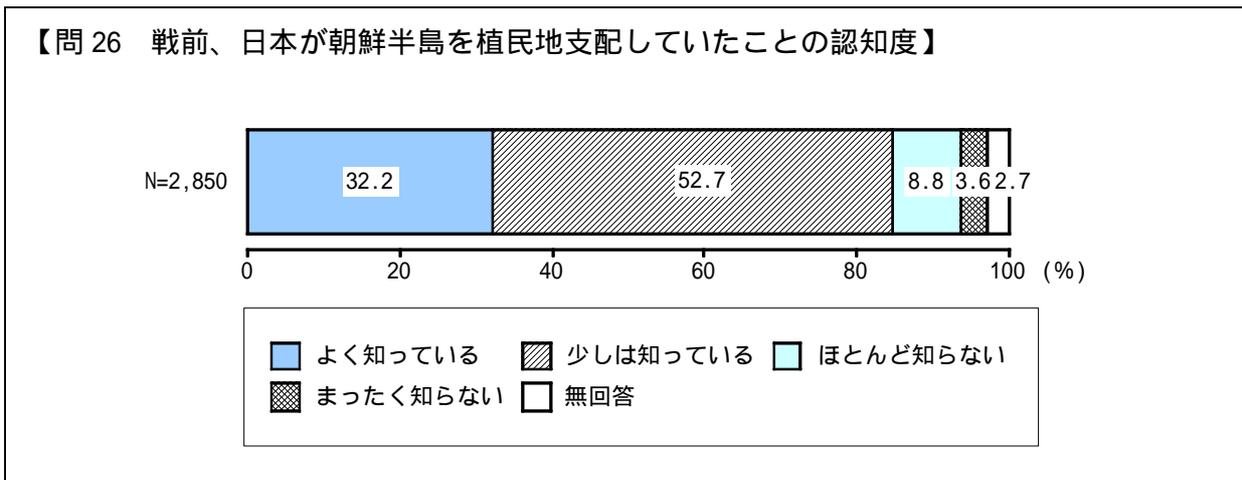
「エ．国際理解教育を進める」について、年代別でみると、「肯定派」の割合は年代に関わらず過半数を占めているが、20歳代で70.0%と最も高く、70歳以上で50.2%と最も低くなっている。特に、「そう思う」は20歳代で4割を超えている。全ての年代で国際理解教育を進めた方がよいという考えであることがわかる。

【問 25 「エ．国際理解教育を進める」(最終学歴別)】

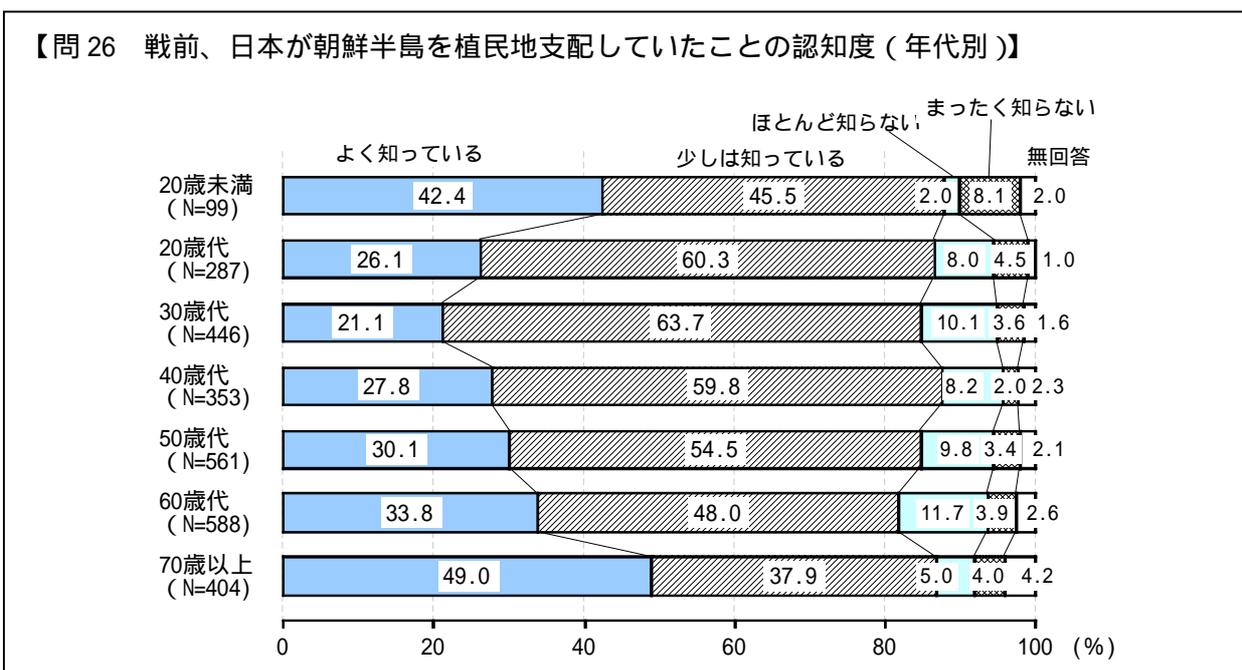


「エ．国際理解教育を進める」について、最終学歴別でみると、「肯定派」の割合は大学、大学院で78.5%と最も高く、中学校では49.3%と最も低くなっており、高学歴になるほど高くなっている。また、「どちらともいえない」の割合は高学歴になるほど低くなっている。

問 26 あなたは、戦前、日本が朝鮮半島を植民地として支配していたことを知っていますか。
 (あてはまるもの1つに)

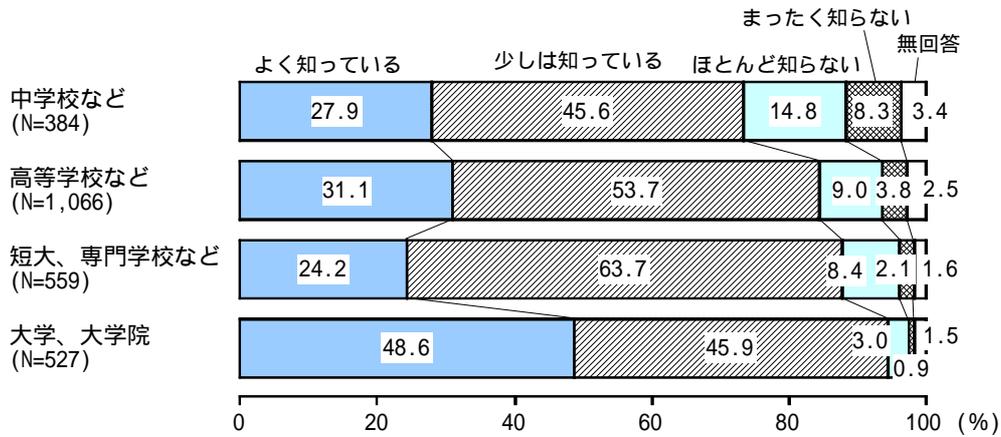


戦前、日本が朝鮮半島を植民地支配していたことの認知度については、「少しは知っている」(52.7%)が最も高く、次いで「よく知っている」(32.2%)となっている。一方、「知らない(「ほとんど知らない」と「まったく知らない」を合わせた層)」も1割以上となっている。



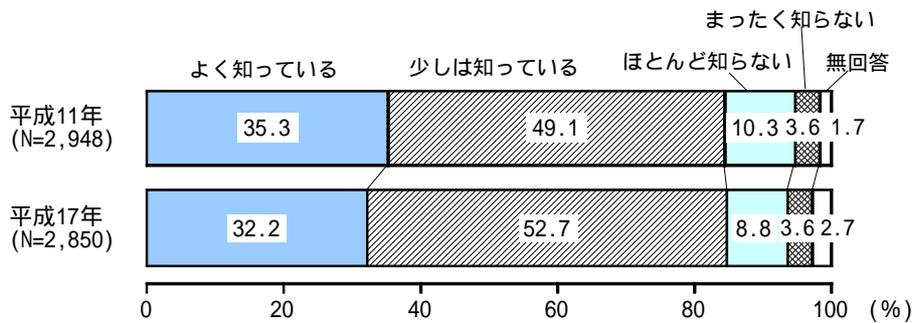
戦前、日本が朝鮮半島を植民地支配していたことの認知度について、年代別でみると、「よく知っている」の割合は30歳代が21.1%で最も低くなっている。しかし、「知っている」はすべての年代で8割以上を占めている。

【問 26 戦前、日本が朝鮮半島を植民地支配していたことの認知度（最終学歴別）】



戦前、日本が朝鮮半島を植民地支配していたことの認知度について、最終学歴別でみると、大学、大学院で「よく知っている」の割合が48.6%と他に比べて非常に高くなっている。また、中学校などで「ほとんど知らない」が14.8%と1割を超えている。

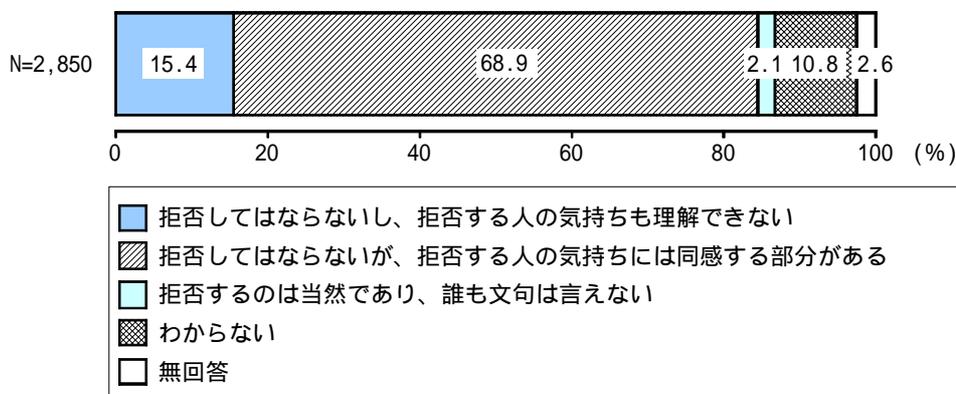
【問 26 戦前、日本が朝鮮半島を植民地支配していたことの認知度（前回調査との比較）】



戦前、日本が朝鮮半島を植民地支配していたことの認知度について、前回調査と比較すると、ほとんど大きな割合の変化はなく、「知っている」の割合が微増している。

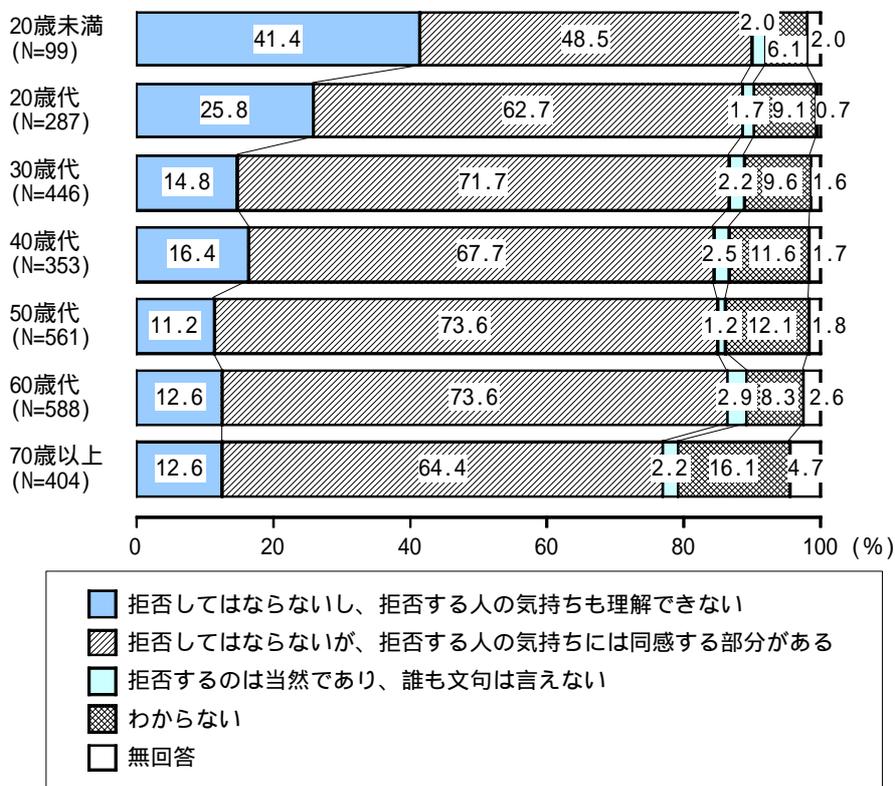
問 27 外国人に家や部屋（マンションや文化住宅など）を貸すのを拒否する日本人がいます。あなたは、どのように思いますか。（あてはまるもの1つに ）

【問 27 外国人に部屋を貸与する際に拒否することへの考え方】

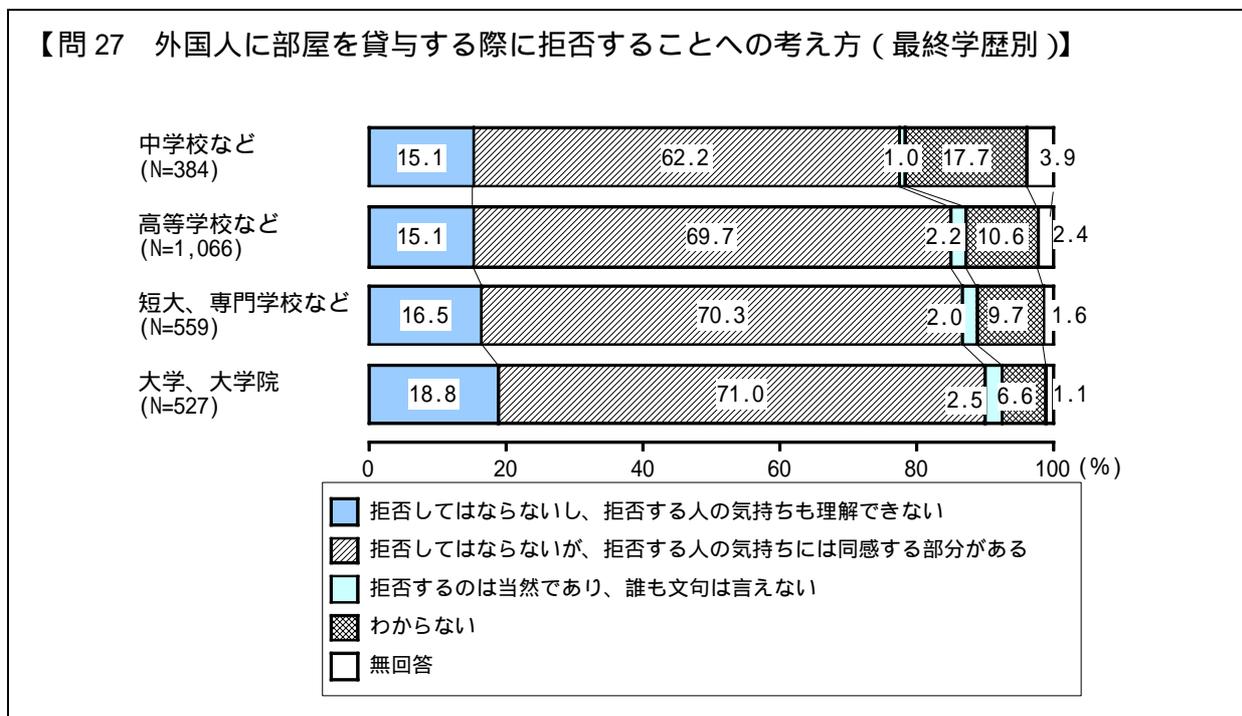


外国人に部屋を貸与する際に拒否することへの考え方については、拒否反応を容認する「拒否してはならないが、拒否する人の気持ちには同感する部分がある」(68.9%)が最も高く、次いで「拒否してはならないし、拒否する人の気持ちも理解できない」(15.4%)となっている。不動産の賃貸に関しては、拒否意識が根強く残っていることが表れている。

【問 27 外国人に部屋を貸与する際に拒否することへの考え方（年代別）】

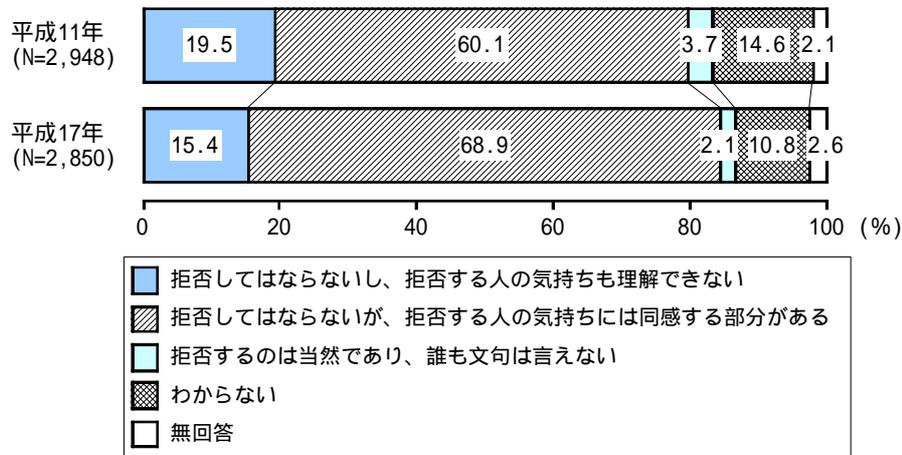


外国人に部屋を貸与する際に拒否することへの考え方について、年代別でみると、「拒否してはならないし、拒否する人の気持ちも理解できない」の割合は20歳未満で41.4%と最も高く、50歳代で11.2%と最も低くなっている。若年層では拒否意識の克服が高いことがうかがえる。また、「拒否するのは当然であり、誰も文句は言えない」の割合は年代に関わらず極めて低くなっている。



外国人に部屋を貸与する際に拒否することへの考え方について、最終学歴別でみると、「拒否してはならないが、拒否する人の気持ちには同感する部分がある」はすべての学歴で高い割合となっている。中学などでは「わからない」の割合が他よりも高くなっている。

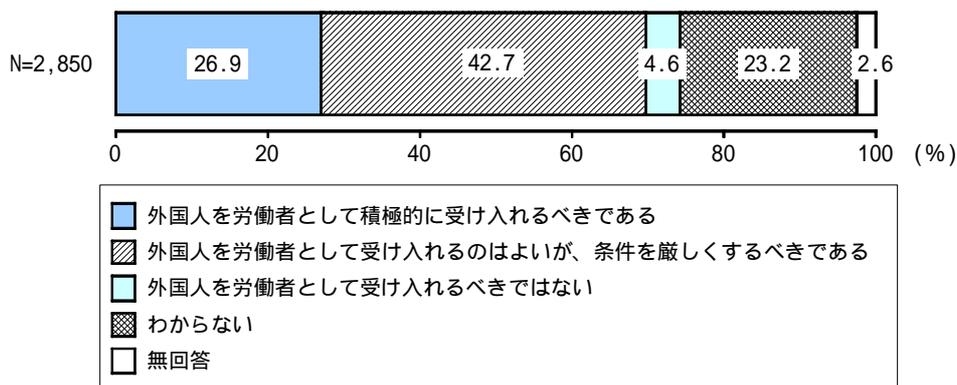
【問 27 外国人に部屋を貸与する際に拒否することへの考え方（前回調査との比較）】



外国人に部屋を貸与する際に拒否することへの考え方について、前回調査と比較すると、「拒否してはならないし、拒否する人の気持ちも理解できない」の割合が減少し、「拒否してはならないが、拒否する人の気持ちには同感する部分がある」の割合が増加している。

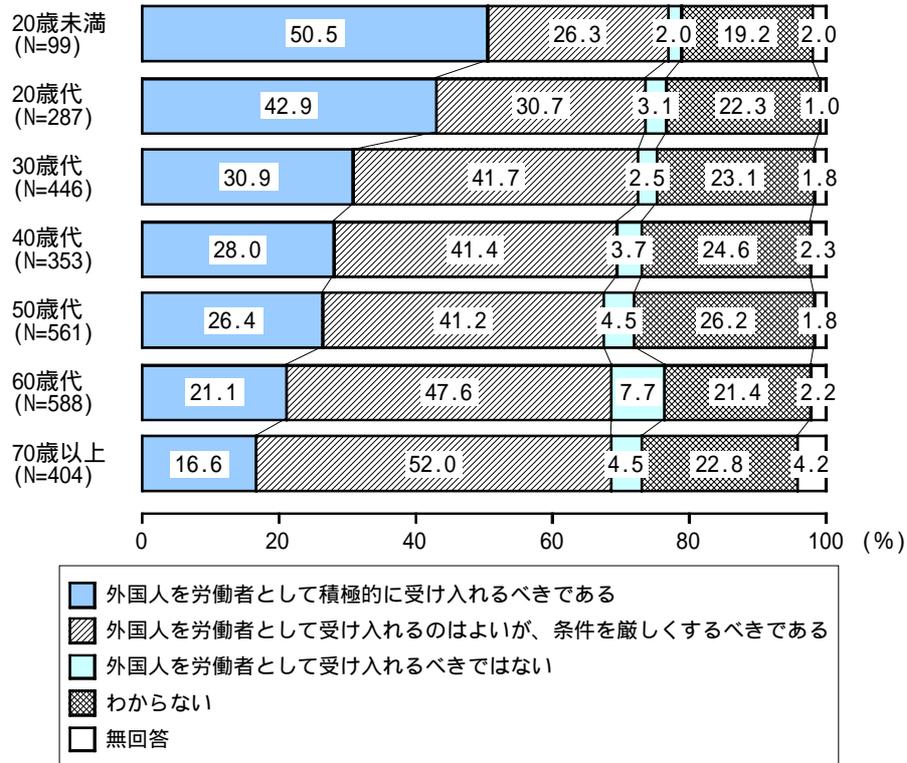
問 28 現在、日本には多くの外国人が働きに来ています。あなたは、外国人を労働者として受け入れることについてどう思いますか。（あてはまるもの1つに ）

【問 28 外国人を労働者として受け入れることについて】



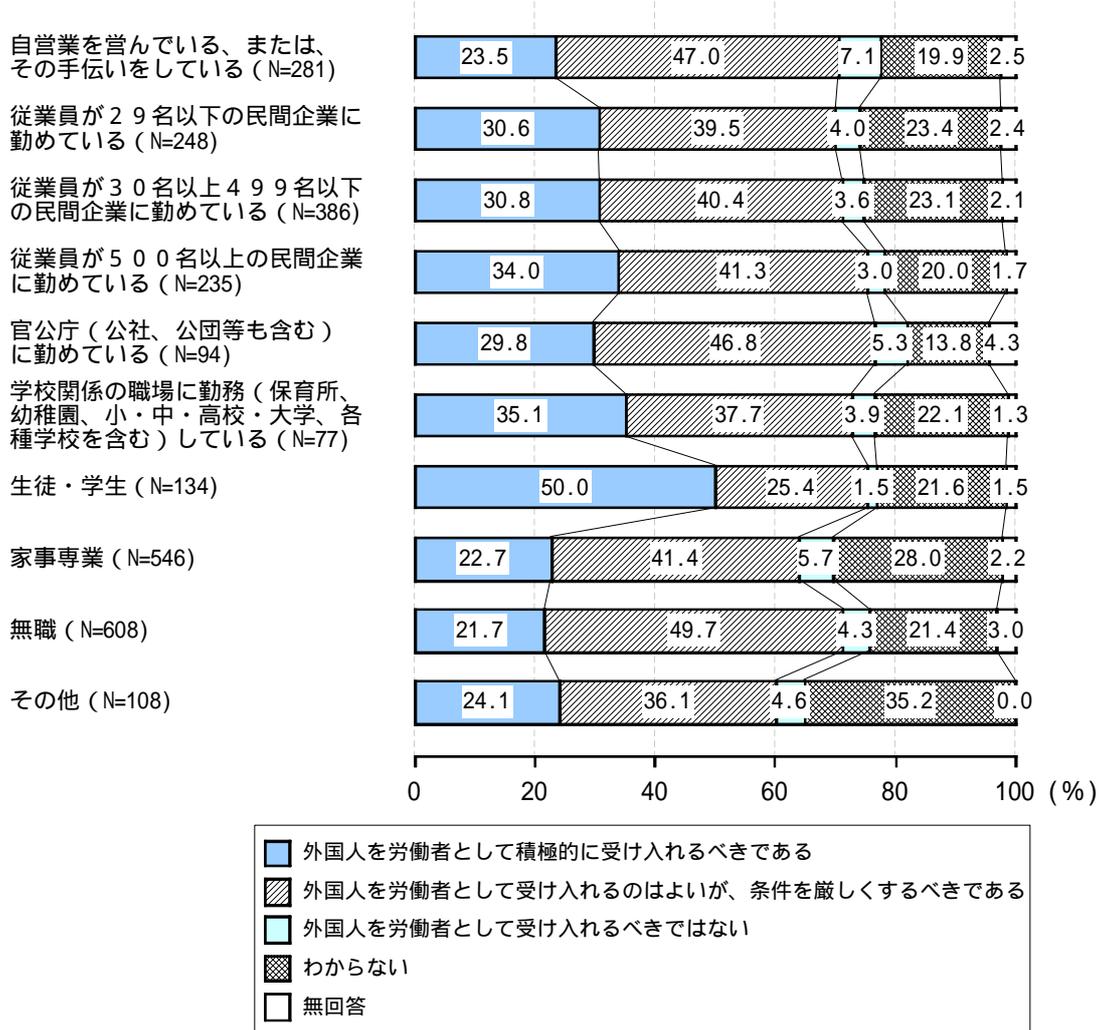
外国人を労働者として受け入れることについては、「外国人を労働者として受け入れるのはよいが、条件を厳しくするべきである」(42.7%)の条件派が最も高く、次いで「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」(26.9%)の積極派となっている。外国人を労働者として受け入れることを拒否する人は少数であるが、どのような形で受け入れるかについては、意見が分かれている。

【問 28 外国人を労働者として受け入れることについて（年代別）】



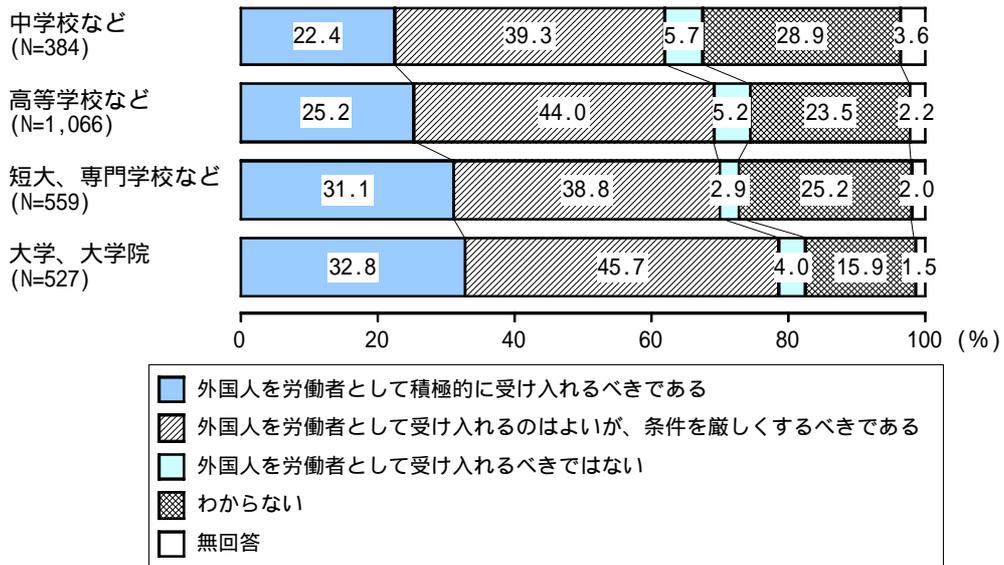
外国人を労働者として受け入れることについて、年代別でみると、「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」の割合は20歳未満で50.5%と最も高く、70歳以上で16.6%と最も低くなっており、加齢とともに低くなっている。逆に、「外国人を労働者として受け入れるのはよいが、条件を厳しくするべきである」の割合は加齢とともに高くなる傾向がみられる。若年層ほど積極的受け入れ、高齢者ほど条件付受け入れの割合が高くなっている。また、「外国人を労働者として受け入れるべきではない」は年代に関わらず1割未満となっている。

【問 28 外国人を労働者として受け入れることについて（就労状況別）】



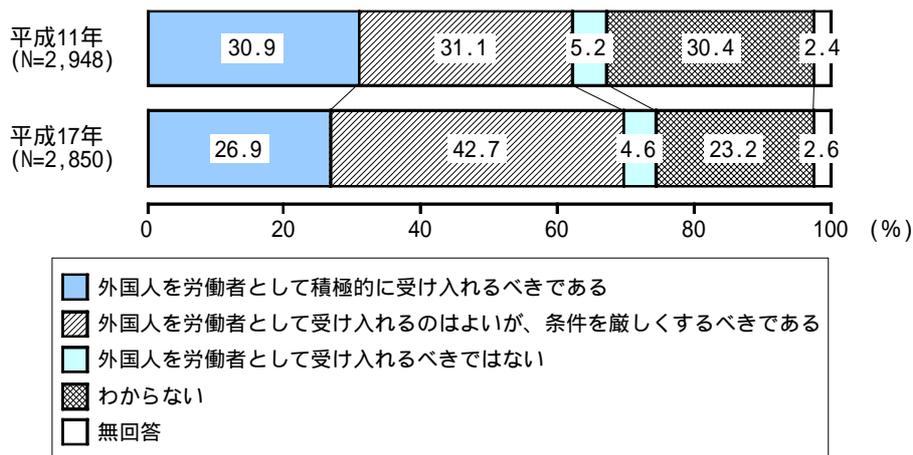
外国人を労働者として受け入れることについて、就労状況別でみると「家事専業」と「その他」において「受け入れ賛成派」が7割未満となっている。一方で、「生徒・学生」では「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」が、5割となっており他の就労状況よりも非常に高くなっている。

【問 28 外国人を労働者として受け入れることについて（最終学歴別）】



外国人を労働者として受け入れることについて、最終学歴別でみると、「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」の割合は大学、大学院で32.8%と最も高く、中学校などで22.4%と最も低くなっており、高学歴になるほど高くなっている。条件付受け入れは学歴に関わらず約4割前後となっており、「外国人を労働者として受け入れるべきではない」の割合は全てで1割未満となっている。

【問 28 外国人を労働者として受け入れることについて（前回調査との比較）】



外国人を労働者として受け入れることについて、前回調査と比較すると「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」は4ポイント減少し、「外国人を労働者として受け入れるのはよいが、条件を厳しくするべきである」が10ポイント以上増加している。全体としては、受け入れに肯定的な意見の割合が増加している。